

必ずお読みになって下さい

低線量C T肺がん検診を受診される方へ

1. 低線量C T肺がん検診の目的について

低線量C T肺がん検診の目的は、肺がんを早期発見することです。

2. 低線量C T肺がん検診のこれまでの成績

低線量C T肺がん検診では、胸部X線検査による肺がん検診と比較して、より小さく、より早期の肺がんを発見できることが国内外の研究で報告されています。また、低線量C T肺がん検診には肺がん死亡率を減少させる効果があることがアメリカ合衆国で報告されています。

3. 低線量C T肺がん検診の方法

ヘリカルC T装置で胸部の撮影を行います。2名の「肺がんC T検診認定医師」が異常の有無を診断します。検診結果は3週間以内に郵送でお知らせします。

4. 低線量C T肺がん検診の費用

費用は全額自費ですが、精密検査が必要と診断された場合には、それ以後の診療は保険診療になります。

5. 低線量C T肺がん検診により期待されるあなたの利益

肺がんにかかっていた場合に、検診によって早期発見されることにより、早期治療で治癒し、その肺がんによって命を奪われるようなことを防げる可能性があります。

6. 低線量C T肺がん検診により起こるかもしれないあなたの不利益

検診の結果が陽性（要精密検査・追加検査）となった場合でも、結果的に肺がんでないこともあります。喫煙する人・喫煙していた人を対象にして低線量C T肺がん検診を行うと、3～6割の人に何らかの“異常な影”が見つかることが報告されています。このうちの9割以上は肺がんではありませんが、“異常な影”の中には肺がんと非常にまぎらわしいものもあるので、約1～2割の人は肺がんとの鑑別のために精密検査や胸部C Tによる経過観察が必要になります。この場合、「肺がんだったらどうしよう」といった不安をかかえる可能性や、本来必要の無い精密検査を受けることになる可能性があります。気管支鏡生検、経皮針生検、胸腔鏡生検などの精密検査では合併症の可能性があります。また、精密検査は保険診療ですが、費用の一部負担が伴います。

将来的にあなたの生命に影響を及ぼさないような、発育の非常に遅い肺がんが発見される可能性があります。

低線量C T肺がん検診による放射線被ばく線量は、通常の胸部X線検査による検

診の約 10 倍ですが、通常の C T 検査の約 4 分の 1、胃のバリウム検査の 2 分の 1 以下です。低線量 C T 肺がん検診を受けて被ばくしたことにより、新たにがんが発生したという報告は今までのところありません。

7. 低線量 C T 肺がん検診で肺がん以外の疾患が発見される可能性

肺がん以外の呼吸器の疾患（縦隔腫瘍、肺気腫、間質性肺炎、気管支拡張症、抗酸菌感染症など）や肺以外の臓器の疾患（肝臓疾患、冠動脈石灰化、乳房腫瘍、副腎腫瘍、腎腫瘍など）が発見される可能性があります。

8. がん検診全体に関わる重要な事項

検診の結果が陰性であっても、これ以降、肺がんにならないというわけではありません。発育の速い肺がんの場合、次回の検診までの間に自覚症状で見つかることもあります。太い気管支に発生する肺門型肺がんや、発育が非常に早い小細胞肺がんなど、低線量 C T 肺がん検診では発見されにくい種類の肺がんもあります。がん検診では追跡調査を行い、結果については、外部の専門家による審査を受けたり、公表（学会発表、論文化）したりする場合がありますことをご了解ください。もちろん、受診者の方々の個人情報に関しては、守秘義務を遵守し、作業のいかなる段階においても個人名が公表されることはありません。

東京都がん検診センター

[お申込み・お問合せ画面に戻る](#)